

主題構成表	主題名	家族の幸せを求めて	資料名	おばあちゃんのこと
--------------	-----	-----------	-----	------------------

■内容項目4-(5) 家族愛
 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役立つことをする。

■価値の分析
 家族とは、最も小さな社会であり、児童にとっては、生活の場、団らんの場であると共に家族からの精神的、経済的保護を受けられる場である。しかし共働き、超過勤務などで両親が家にいないなど、家族間の関わりが希薄になってきている。
 家族のありがたさや家庭のぬくもりについて、児童に改めて考えさせ、家族の大切さに気づかせたい。

■資料の分析
 <幼いころ>祖母は、店の仕事、夜なべの針仕事、男手なしのもちつきと忙しく働く毎日だったが、幼いころの私には、なぜそんなに働くのかわからなかった。
 <年頃になって>ある日のアラ汁の出来事をきっかけにその疑問が解ける。家族の立場を思いやりいたわる祖母の心があったからこそだということに気付いた私は、今までの自分を反省し、祖母に心から感謝する。
 ※時間の経過が複雑なので、要所を押さえ、分かりやすい板書をする。

■児童の実態
 核家族化、父子家庭母子家庭の問題が深刻化している現代において、荒城地区は3世帯同居の家が多く、(5年のクラスは全員3世代同居)家族のつながりは、深いものがある。
 家の手伝いはよくできている子が多いが、それぞれの立場を理解し合って助け合っているというところまで意識は及んでいない。
■意識の要因
 児童は、5年生と言えども、まだまだ自己中心的なところが見られる。そのため、家族に温かく見守られていることに気づかず、当たり前のように受け止めるだけで、不満や批判が先行して、親愛の情に欠ける一面がある。

■ねらい
 家族の無償の愛に気づき、敬愛し、家族の幸せを求めて進んで役立つとする心情を育てる。

■展開の構想
 ○学級の児童にとった父母、祖父母に対するアンケートの結果を聞く。(事前にアンケートをとり、本時の価値に関係あるものを選んでおく。)
 ・感謝したこと→展開後段につながる。
 ・腹が立ったこと→アラ汁をあげ返したときの「私」の気持ちにつながる。
 ○アラ汁をあげ返したときの「私」の気持ちを考え、せつかく何かしようと思ったのに家族にじやまをされて腹が立ったような経験や家族についての自己中心的な不満や批判に十分共感させる。
 ○汁わんの中でぐるぐる回りした祖母の姿、年老いた背を丸めながら針仕事をする祖母の姿から、主人公「私」の幼い頃の疑問「なんでそんなに働くんだかなあ」が解け、家族の幸せのために働いてくれている祖母へ感謝の気持ちをもつようになったことに気づかせる。また、一方的に愛情を受けるだけでなく、自分も祖母を大事にしていこうという双方向の気持ちであることに気づかせる。
 ○今までの生活を振り返り、祖父母や父母などの家族の愛情に対して、自分はどうか応えてきたかどうかを振り返らせる。

■基本発問(◎中心発問)
 ○学級の児童にとった父母、祖父母に対するアンケートの結果を聞く。(感謝したこと、腹が立ったことけんかしてしまったこと)について紹介する。
 ○幼いころの「私」は、どんな気持ちで、働く祖母の姿を見ていたのだろうか。
 ○アラ汁をあげ返したときの「私」の気持ちはどうだったか。
 ◎祖母のどんな姿が汁わんの中でぐるぐる回りしたのだろうか。そのとき、「私」はどんなことを考えたか。
 ○年老いた背を丸めながら、針仕事をする祖母を「私」はどんな気持ちで見ていたのだろうか。
 ○祖父母や父母に対してありがとうと思うことを書きましよう。